豊剣会だより

（表題字・中９　榎原　武雄氏）

『豊剣会総会のご案内』

◆月日　平成８年５月19日（日）　◆時間　午後２時～４時

◆会場　豊中高校・３階会議室　◆要領　豊剣会 総会及び 親睦会

本年も豊陵会総会終了後、上記の通り実施いたします。尚、在校生との合同稽古は、中間テストのため今年は行ないませんが、総会後、恒例の親睦会を設営いたしております。若い先輩諸兄方もお誘い合わせで参加下さいますようお待ちしております。

豊剣会総会・親睦会費用￥3,000（但し学生は無料）は、当日、会場の３階会議室・受付でお支払い下さいますようお願いします。

『挨拶』

会長　西村　淳一

若葉の薫る季節となりましたが皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。阪神大震災で被害を受けられた諸先輩に心より一日も早い復興をお祈り申し上げます。

今年は干支頭の子年で末広がりの八の年でもあり必ず良い年でありますよう、皆様と共に願う気持で一杯でございます。

さて、我が豊剣会も今年高校48期の新会員を迎えることとなり、いよいよ若返えって参り、旧制中学卒の先輩に替わり、豊中高校卒の先輩に全面タッチの好機到来が期待されます。

中学１回生からの伝統は同窓会で70周年を迎えました。一口に70年とは申せ、気の遠くなる様な永い年月です。この間、諸先生方、諸先輩方により年々受け継がれて来た「豊剣会」は、考えて見ると、ただ「母校で竹刀を握った」と言うささやかな「縁」によるものでしかなく、しかも上は89才から下は18才まで約六百名の剣友の集まりであります。

この剣道に縁のある同窓会で、しかも光輝の伝統を持つ豊剣会を次の世代の皆様にどの様に申し送って行けば良いのか?、常に迷いつつ、役員の方々とも鶴首相談を重ねつつ、試行錯誤を繰り返して居るのが現状でございます。

若い先輩諸兄姉に一年に一度は母校に集まって頂き、旧交を温めあって貰う場を作るのが一番の責務との結論を得て、若い先輩諸兄姉を中心とした「撥刺とし豊剣会」の実現が一日も早く来ることを願い、ご挨拶と致します。

『第２回 豊剣杯争奪大会』

昨年３月26日に、故川上・井坂両師範及び、故中務先輩始め物故諸先輩を偲ぶ追悼の会として、春休みを利用した「豊剣杯争奪大会」を、新たに豊剣会定例行事として実施することになり、その第１回が行われています。

この実施の直接の理由は当会の創立者であり初代会長であった中務秀夫（中７）先生が逝去され、豊剣会の発展の為に20万円のご寄贈を頂いたのと、従来より母校同窓会豊陵会総会の当日朝に実施して来た在校生との親睦稽古も、顔触れが決まって来た上に、在校生の中間テスト前と言う不都合があり、別の適当な日を決める必要を感じていたためであります。

それ迄に両３年にわたり、春の或る日に突然若い先輩達が三々五々と母校へ集まって来た事があり、聞いてみると「卒業別の試合をする」との事。その時に、『良い事を聞いた。これが今後の豊剣会のメイン行事になる』と感じたものでした。そこで、一年一度春休みを利用して母校に集まり、『卒業期別団体戦』でもやり、終わって在校生と交換稽古、後は別室で懇親会を実施する形式に決定した次第です。

今年はその２回目、平成８年３月31日（日）午後１時30分より、母校柔剣道場に於て、物故師範及び諸先輩のご冥福を祈る黙祷に始まり盛大に挙行されました。

当初は24日を予定していましたが、阪大招待試合に在校生が出場するので延期して31日となったため、てんやわんやの準備となり、総出席人数が確定したのが３月28日、スベリ込みセーフと言う有り様でした。それでも高田先生、曽和先輩の格別のご尽力により約60名の参加を得ることが出来たことはご同慶の至りです。

来年からは、もっと早く準備にかかり、より多くの参加者獲得を計りたいと思います。皆様の全面ご協力をお願い致します。

（試合結果など大会の模様は、４ページに掲載）

尚、当日に記名のあった参加者は次の通り。（敬称略）

（中９回）榎原武雄、（中10回）薦田巖男、（中14回）西村淳一、（中16回）秋山 勇、（中21回）佐藤 功、（中22回）宮崎喜昭、（高10回）近久智彦、（高13回）大芝利文、（高16回）大芝信雄、（高18回）松原基夫、（高19回）松村栄太郎、（高20回）高田裕文、（高37回）曽和昭文、（高37回）奥野嗣敏、（高37回）大森一夫、（高44回）平岡已和、（高45回）天満俊秀、（高46回）渡部義久、（高46回）石田正樹、（高46回）広田修一、（高46回）守屋研一郎、（高47回）若 奉典、（高47回）稽古庵総志、（高47回）野田義晴、（高47回）吉田淳一、（高47回）南 葉子、（高47回）上田千尋、（高47回）大澤 奈保子、（高48回）吉田基子、（高48回）中原久美、（高48回）木村麻子、（高48回）松本明子、（高48回）長瀬 享、（高48回）高橋 良、（高48回）梅山重人、（高48回）新開健太郎、（高48）光久広志。

［ご来賓］園山哲夫先生（前剣道部顧問）以上38名と、現役生徒21名を含め都合59名。

開会式の情景

『賛助会費 協力者名簿』

（敬称略～卒業期順）

◆中４岩崎繁男、荒川拓◆中６岡田斉孝◆中９佐久（小東）博、鈴木 勇、牧野龍雄◆中10灘上順之助◆中11原田 憲◆中12山口嘉夫◆中14渡瀬健二◆中15杉浦嘉人◆中16刀禰晴雄、秋吉 薫、前川昌三◆中17北村 勤、中島巌◆中18森川五郎◆中19小山善基◆中20鈴木信一、佐野 浩◆中21水野貴夫、西谷 稔、土肥通夫◆中22宮崎（上島）喜昭、玉城哲一◆中23芳賀 洋◆高10吉村克彦、近久智彦◆高13大芝利文、西尾正寿◆高16筒井 修、大芝信雄◆高18松村栄太郎◆高19松原基夫◆高25上原伸一◆高27西崎（高木）佳子◆高29加藤芳哉◆高30石橋一雄◆高34世古信三◆高35塩見雅人◆高36市村（谷）依子◆高37曽和昭文、桜井（白岩）愛子◆高38清水直樹、古谷和久◆高39河村（岡島）昭美◆高41野間宏平、笠野（高井）尚子◆高44大辻晶子◆高45林 正憲、今泉佐知子、八頭司初美◆高46広田修一◆高47田中乙菜、野田義晴

【追記】

掲載していませんが、総会などで諸先輩方から御芳志を頂いております。この場をお借りして厚く御礼申しあげます。

『総会』

平成７年５月21日、例年通り豊陵会総会の日に合わせ、豊剣会総会と親睦会が、午後１時から豊中高校３階会議室で開催されました。

朝の在校生との親睦稽古は、総会より先の３月26日に開催された第１回豊剣杯争奪大会での親睦稽古にゆずって行われなかったため、午後の総会・親睦会のみの開催となりました。

そのためか今回は参加者が少なく、ややさびしい感があり、「来年からは豊剣杯争奪大会日に併せて総会をしてはどうか」という案も出ていました。それでも、なごやかな語らいの内に、予定通り総会は無事終了しました。

当日参加された方々は左記の通りです。

（敬称略・卒業期順）

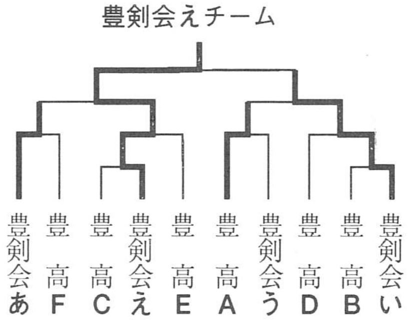
中９回	榎原武雄
中10回	灘上順之助
中10回	温品正雄
中10回	薦田巖男
中14回	西村淳一
中20回	佐藤雄直
中22回	宮崎喜昭
高10期	近久智彦
高18期	松村栄太郎
高20期	高田裕文
高20期	西殿雅夫

『豊剣杯争奪大会結果報告』

1ページにも掲載の通り、春の気配濃い平成８年３月31日。第２回目の豊剣杯争奪大会が行われました。

第１回大会の時と同じく参加者呼びかけと、試合の運営進行は、曽和昭文先輩（高37）を中心とした若い先輩諸兄姉の主導で行われ、二回目と言うことで和気藹々のうちに10チームが参加し熱戦を繰り広げました。

審判長の大芝信雄先輩のルール説明で13時40分に試合開始、トーナメントで優勝を競い合った結果、豊剣会**え**チームが見事優勝、第２位には豊剣会**い**チームが、第３位は豊高**A**チームと豊剣会**あ**チームがそれぞれ入賞を分け合いました。



各入賞チームの出場選手は次の通りです。

◎優勝　豊剣会**え**チーム　石田正樹、光久広志、梅山重人。

◎２位　豊剣会**い**チーム　渡部義久、若 泰典、広田修一。

◎３位　豊高**A**チーム　豊田真介、福岡大輔、尾久土 寛。

◎３位　豊剣会**あ**チーム　天満俊秀、守屋研一郎、稽古庵総志。

試合終了の後、引き続き園山哲夫先生や、大芝利文先輩（高13）をはじめ、試合には出場しなかった年長の先輩を含めた親睦交換稽古が開始され、竹刀の音が道場いっぱいに響きわたりました。その様子を、さらに大先輩が観戦し、要所要所で大きくうなずく、といった和やかな交歓風景が繰り広げられ、午後３時30分に稽古終了。

直ちに表彰式に移り、審判長の試合と稽古での公評に、在校生が熱心に聞き入る様子に、この催しの意義を改めて感じました。

その後、西村会長から入賞チームに豊剣杯と賞品が手渡され、盛んな拍手の内に第２回豊剣杯争奪大会は、成功裡に閉会しました。

続いて４時から行われた懇親会は、榎原武雄大先輩（中９）の乾杯音頭ではじまり、多数の若い先輩の参加によって、若々しい雰囲気の中、歓談が続けられ、午後５時半過ぎ、大会行事は全て無事に終了しました。

優勝の石田、光久、梅山の３君

試合風景

親睦稽古風景

懇親会風景

—☆—☆—☆—☆—☆—

『編集後記』

何とか「豊剣会だより」第７号発行にまで漕ぎ付けました。一年一度の発行ですので、あの人は？この人は？と卒業後会う機会の少ない同期の方々の動静を記載したいと思いつつも、又全般的な行事報告しか出来ないことを大変残念に思っております。何と言っても同期人々の便りは一番懐しいものです。是非近況をお報せ下さい。

豊　剣　会
〒560
大阪府豊中市上野西2丁目5番12号
豊中高等学校内
電話 大阪 06（854）1208（代表）
06（849）4973（直通）
FAX 06（849）4973

住所変更等は必ずお知らせ下さい。

▶同封の振込用紙で会報協力金をお願いします◀

『豊高剣道部活動報告』

剣道部顧問　高田裕文

《顧問・部員の紹介》

※平成8年度の顧問
青木眞知子（英語）
重森　英彦（国語）
高田　裕文（社会）
濱野　俊一（理科）
山崎　一（国語）

※平成7年度の剣道部部員の氏名・取得段級位は以下の通りです。

【2年生部員】

（男子）尾久土寛［部長・二段］、門脇真一［二段］、小山卓也［二段］、阪本裕貴［初段］、為平隆治［初段］、豊田真介［二段］、福岡大輔［二段］、皆川真崇［二段］、矢野倫太郎［二段］。

（女子）大森久美子［女子部長・二段］、岸本かおる［初段］、寺谷俊美［マネージャー］、福嶋典子［一級］、吉賀緑［初段］。

【1年生部員】

（男子）石田拓司［初段］、加藤信幸［初段］、野矢士郎［初段］、前田陽史［初段］、亦野成信［初段］。

（女子）木下佳子、原野真理子［初段］、三坂裕子、矢田亜希子［マネージャー］

《剣道部の1年間》

まず、前記部員の紹介からも明らかなように、平成7年度の新入部員が少なかったことがあげられます。剣道をする女子部員は当初1名で、昨年11月にマネージャー1名と新入部員1名が剣道をはじめてくれて、ようやく3名となった次第です。この影響が本年度は色々な場に現われました。まず試合の女子団体戦が組みにくくなったこと、1年生男子部員の少なさと相まって、夏期合宿の1人あたりの費用が急増したことなどです。

昨年度に引き続き、中学21期の豊田俊一氏に、府教育委員会委嘱の運動部活動指導者として、部員の指導をやっていただいております。また豊剣会長の西村氏も初心者指導をお引き受けくださり、合宿の付き添いと指導を含め、お二人の多大な貢献を得て参りました。

剣道部員の努力と共に、お二人のおかげで、公式戦で昨年を上回る好成績をあげることができました。

11月3日におこなわれた新人大会の団体戦ブロック予選では、男女ともみごと勝ち抜き、19日の中央大会に進出しました。特に女子団体は、部員不足で4人であったにもかかわらず、好成績をおさめ大会本部から健闘を讃えられました。同じく5日におこなわれた個人戦でも、女子で大森さんがベスト16と、好成績を残しました。

現在の部活動の特徴は、以前にもまして、練習メニューが多彩になり工夫がみられることです。これは、現部長の尾久土君を中心にした部員が色々工夫しようとした努力の現われといえます。このよい傾向を、次の学年の部員が継承してくれるよう、顧問としても願っている次第です。

今後とも諸先輩の、豊高剣道部・現役部員へのご支援・ご指導をお願いしたいと思います。つきましては、諸先輩に道場をのぞいていただく際のご参考に、日常の練習時間を以下にあげておきます。平日は午後3時50分頃から5時15分まで。土曜日は午後1時30分頃から3時までの日（前半練習日）と、3時から5時までの日（後半練習日）があります。考査1週間前からは練習がありません。

《平成7年度夏期合宿》

昨年度の合宿は、7月25日～28日に、兵庫県淡河スポーツ研修センターで、宿舎を全館借り切って行ないました。

例年通り西村・豊田両氏に、全日程参加の上、終始指導・助言をしていただきました。また高校16期の大芝信雄氏が、今回も遠く横浜から指導に駆けつけてくださり、若いところでは高校46期の石田正樹君が友人と指導に参加してくれました。その上、今回も豊剣会から多大な援助金を頂戴しました。この場をお借りし、あわせてお礼申し上げます。

合宿のおおよそのスケジュールは毎年ほぼ同じです。昨年は以下のとおりです。

25日　10時堀田公園前出発
↓バス↓12時宿舎着↓昼食
↓13時30分～16時30分練習
↓夜は自由時間。
26・27日　9時～11時30分と13時30分～16時30分が練習。（昨年は26日夜に豊田氏から、プリントを用いて、剣道の理論の講義をしていただきました。27日夜は例年通り1年生の隠し芸大会）
28日9時～11時30分練習。試合→昼食後帰途に→15時頃堀田公園前で解散。

《平成8年度夏期合宿予定》

本年度も以下の要領で夏期合宿を予定しております。（但し、部員減少がさらに続くようですと変更の可能性もあります。）

実施日　7月22日（月）～25日（木）
場所　兵庫県淡河スポーツセンター（神戸市北区淡河町淡河字長松586）

全館7室を借り切っています。人数に限りはありますが、諸先輩の積極的な参加をお願いいたします。（学生は豊剣会で全額負担していただけるそうです。）

参加の申込は、7月上旬までに、顧問の高田まで（電話でけっこうですので）お願いします。

『二年間を振返って』

部長　尾久土寛

僕が二年間を振返って思ったことを書かせていただきます。

僕が豊高剣道部に入部した一年生の時は良き先輩・指導者に教えを受ける毎日でした。先輩方は僕たちよりずっとレベルが上だったので、それについてゆくだけで大変でした。しかられたこともしばしばでしたが、僕たち一年生は、それをバネにし、毎日の練習にいっそう励みました。

二年生になって、今度は後輩を指導する立場になったのですが、その時指導することの難しさを知り、初めて先輩の苦労がわかりました。

最初はみんな僕の練習方法についてきてくれるか心配でしたが、しばらくするとみんなもよくのみこんでくれ、その後は新しい練習方法も積極的に取り入れて、私達なりの練習の形ができてきました。

僕が練習に際して第一にしたのは、自主性を重んずるということです。他人から言われてやるのではなく、自分自身がどのようにしたら良いのかを絶えず考えてもらうようにしました。そうすることによって各人の意識がより高まり、かつ練習もより効果的なものになっていったと思います。

このようにして考え出した練習方法を、後輩に伝えてゆくことによって、伝統ある豊高剣道部をさらに発展させることができるのではないでしょうか。後輩にはその点をお願いしたい。

新三年生の引退まで二ヶ月足らずです。最後まで悔いを残さないよう頑張ってゆきたいと思っております。

—☆—☆—☆—☆—

『道歌について』

剣道を修める者にとって忘れられない数々の道歌がある。昭和56年5月17日発行の豊中中学・豊中高校剣道部六十年史に掲載されている道歌の中から一、二抜粋して参考に供します。

悪念の　起こるところを
切り払う　これが宝の
剣なりけり

兵法は　かくしつつしむ
心より　まさる極意は
あらじとぞ思う

あら磯の　もくずが波に
打たれても　猶打ち返す
負けじだましい

己が身を　勇気の槌で
打ち砕け　これぞ誠の
教えなりけり

憂きことの　尚この上に
つもれかし　限りある身の
力試めさん

剣道は　人に勝つより
我に勝て　人に勝つ理を
学び乍らも

太刀は我　邪気を払うの
采配と　ただ一筋に
思いいるべし

◆◆◆

我に勝ち　味方に勝ちて
敵に勝つ　これを
武将の　三勝と言う

道場に　入る時には
身をただし
心の鏡　曇りなきよう

道場は　神の宮居ぞ
心して　出ずるも
入るも　身を浄くせよ

身と心　技を鍛えて
良き人となす　道の場ぞ
おろそかにすな

水鳥の　行くも帰るも
跡絶えて　されども道は
忘れざりけり

ただ見れば　何の苦もなき
水鳥の　足に暇なき
我が思いかな

いろいろに　姿勢態度も
きまらずに　打たん心は
禁物と知れ

立合は　心静かに気を配り
富士の姿を　姿とはせよ

いろいろと　構えはあれど
正眼の　外に心を
移すべからず

『短信』

◇中4回　岩崎繁男
役員諸氏に感謝と共に、豊剣会の益々の発展を祈る。

◇中9回　鈴木　勇
小生、目下入院中。

◇中10回　灘上順之助
盛大ならんことを祈る。

◇中16回　秋吉　薫
豊剣会だよりを拝見し、現役の部員が各剣道大会にて好成績で頑張っておられる様子を思い大変よろこんでおります。今後共大いに発展することを望んでおります。

◇中16回　前川　昌三
豊剣会だよりを懐しく拝読。皆様の格段のご尽力に深く敬意を表します。

◇中19回　小山　善基
3年前、県立病院を定年退職してから近くの日立の診療所に勤務しております。

豊剣会の案内をいただく度に交通が便利になったとはいえ、やはり大阪は新潟からは遠く、そちらに住んでいる方々が羨ましくてなりません。御盛会をお祈り致します。

◇中20回　鈴木　信一
豊剣会だよりを、いただき有難とうございます。大変お世話さまでございます。

実は、夫、信一去年十月二日に亡くなりました。お知らせをしないで誠に申訳ございませんでした。生前お世話になりましたお礼として、多少ではありますが、会の為にお使い下されば幸いに思います。

◇中21回　西谷　稔
豊剣会だよりにより中務先輩の訃報を知り、そのお人柄を偲んで心よりお悔みを申しあげます。平素よりお世話をいただくばかりで心苦しく思っています。

豊剣杯争奪大会の創設等豊剣会の益々の発展とご盛会を願っています。

◇中21回　土肥　通天
何時も豊剣会だよりを楽しみに愛読致して居ります。有難うご座居ます。益々のご発展を祈ります。

◇高13期　大芝　利文
平成7年1月17日の大震災により、神戸は大きな被害を受けましたが、その後の復旧、復興は目覚しく、急ピッチに進められております。

私もホテルと共に8年が過ぎ、これからも神戸の再発展に微力ながら尽していきたいと思います。神戸へお越しの節は、是非お立寄りください。

◇高16期　筒井　修
4年振りに広島より大阪へ帰って来ました。

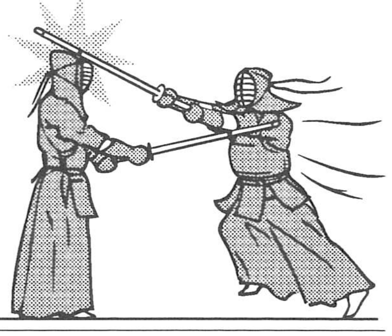
◇高27期　西崎（高木）佳子
いつも会報をありがとうございます。

◇高29期　加藤　芳哉
御無沙汰をしております。服部天神宮で神明奉仕しております。服部幼稚園に於きましても、園児に剣道を正課として教えております。

豊剣会の益々の御発展をお祈り致します。

◆◆◆

『転居通知』



—☆—☆—☆—☆—

高16期　筒井　修
〒561　豊中市服部寿町2-17-26
高16期　安田勝紘
〒738　広島県廿日市市阿品台北1-61　電話0829-39-4091
高36期　市村（谷）依子
〒563-01　大阪府豊能郡能勢町片山141-41　電話0727-34-2364
高38期　古谷和久
〒430　静岡県浜松市住吉2丁目28-14コスモスB-4
高39期　河村（岡島）昭美
〒261　千葉県美浜区幸町2丁目18-8-505号
高41期　野間宏平
〒240　横浜市保土ヶ谷区上星川町525-2ルミネハイツK206　電話045-374-0185
高41期　笠野（高井）尚子
〒567　茨木市小柳町9-22サンライズ山野A202　電話0726-35-2367
高44期　大辻晶子
〒563-01　大阪府豊能郡豊能町東ときわ台4-7-2
高47期　野田義晴
〒484　犬山市大字羽黒字神明46-3

『陰の援助に感謝』

故堀義光先生（中4、豊中自動車教習所所長）が教習所の別に経営をしておられました日盛紙業（株）（印刷業）さんに毎年発行する「豊剣会だより」の印刷（振込用紙、封筒共）をお願いしておりますが、「剣道部は金がない」と言うことをよくご存知で、きっと「堀が生きて居たら、会の為に寄付をする」と多分言う筈とのことで、初回から今日まですべて無料でご奉仕願っております。

目に見えぬ、陰のご支援ご援助に厚く御礼申し上げますと共に、豊剣会の益々の発展のため、皆様と力を合わせて先輩の期待に応えて行く決意を新たにするものであります。

◆◆◆

『釈迦に説法』

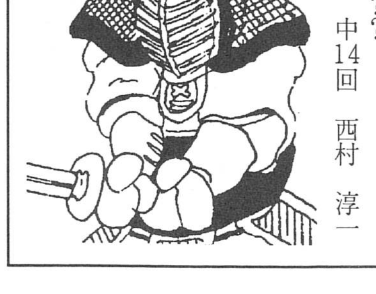
剣道の経験のある皆さんには釈迦に説法とは思いますが、数多い剣道の教えの中で私の座右の銘としている教えの一つに「守破離」（シユハリ）と言う言葉があります。剣道連盟発行の学科解説には『剣道においては、修業の段階を示したもので、守とは初歩の段階を言い、破とは初歩の段階を踏破して前進することを言い、離とは破の段階を越えて、一流一を編み出すまでに精進することを言うのである。』と解説しています。

最初の間は教えて貰った事を他に心を移さず、真面目に一生懸命覚えろと言い、覚えたら今度はその知識を他に利用出来ないか？他ではどの様に活用してるのか？範囲を広めて研究実践してみよ、それが出来たら今度は、それを自分流のものにして他の者には真似が出来ない位にまで完成させて見よ。と言うことだろうと勝手な考えをして随分人生に役立てて来ました。

例えば入社早々の外交教育で習ったことは、黙って居ては商売にならず「話法」の必要性が出て来るが、どんな話から切り出すか？新米外交員の一番の悩みだ。先輩は、私に「話題」は色々あるが「木戸に立てかけせし衣職住」と覚えよと教えてくれた。「き」は気候、「ど」は道楽、「に」はニュース、「た」は旅の話、「て」は手柄話、「け」は結婚、「せ」はセックス、「し」は仕事、その他に衣職住の話と幾らでもあり、その話の中で顧客の関心はどの話にあったかを敏感に察知していなければ良い外交員にはなれないと教えてくれた。

この話法の研究には、随分日にちを要したが、一年もすれば何とか順番を考えなくてもスラスラと口に出てくるようになった。2年目には「今日はどの話で行こうか？」と訪問前に頭の整理が出来るようになった。3年目には意識しないで客の話に耳を傾けられる余裕すら出来た。これ即ち守の段階を乗り越えた証拠であろう。次には客の好みを研究して見ようと考え、庭に植えてある木々の名前から覚えだした。次は花の名前と育て方や害虫の事等。植木や花の名前の多いのに先ず驚きとてもとても覚えられないと悲鳴を上げた。ただこの時に感じた事は、いつの間にか仕事に興味が出て来たことだ。あんなに嫌だった外交訪問が楽しみにさえなった。他金融機関の顧客を獲得した時の感激は終生忘れられない思い出である。

この時分になると後輩が数人出て来るものだ。この新人に外交の教育を実施する責任が生じて来て、かつて先輩に教えて貰った「話題」の覚え方に自分が体験した失敗談を折り混ぜて教育に専念することとなり、教える事の難しさを痛感させられると共に教えを破る難しさを知る。他金融機関では早朝会議を実施していると言う情報を握り、早速こちらも負けずに実施して成果を上げた事もあった。これも「守破離」の教えの実践の一つに他ならない。残念ながら、一流の域には到底遠く外交勤務を終えたが？？？

中14回　西村　淳一